



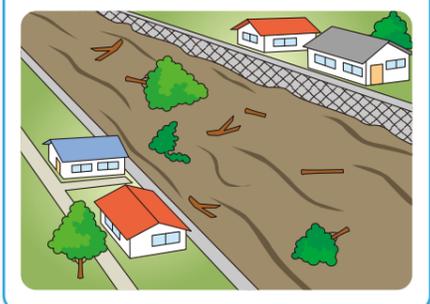
集中豪雨に備えましょう

近年、梅雨前線の停滞や台風の接近などを原因として、同じ場所に大量の雨を降らせる「集中豪雨」や、夏場などに大気の状態が不安定となって積乱雲が発達し、短時間に局地的に激しい雨を降らせる「局地的大雨(ゲリラ豪雨)」が発生するケースが増えています。大雨による災害発生に備え、気象情報や前兆現象に注意しておきましょう。

豪雨の危険性を知っておきましょう

短時間で危険な水位のおそれ

河川、用水路などは、激しい雨が降ることやまわりから雨が流れ込むことで、短時間で危険な状態となります。



排水能力を超える大雨

排水路・側溝の排水能力を超える豪雨によって、土地・建物等の浸水が発生する現象(内水はん濫)が頻発しています。



離れた場所の雨にも注意

自分のいる場所で強い雨が降ってなくても、上流で降った雨が流れてきて、危険な状態になる場合があります。



このような前兆を確認したら避難しよう

- 雷鳴や稲妻を確認したら建物内へ避難する。
- 大粒の雨やひょうが降り始めたら建物内へ避難する。
- 急に冷たい風が吹き始めたら注意する。
- 川の水かさが増えたり濁ってきたらすぐ避難する。

活用しよう! 気象庁のホームページ

気象庁HPの、「降水ナウキャスト」情報は最新状況から1時間先までの5分毎の降水の強さを予報します。
「レーダー・ナウキャスト(降水・雷・竜巻)」
<http://www.jma.go.jp/jp/radnowc/>

雨の降り方と強さ

1時間雨量	10~20mm	20~30mm	30~50mm	50~80mm	80mm以上
予報用語	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
人が受けるイメージ	ザーザーと降る。 	どしゃ降り。 	バケツをひっくり返したように降る。 	滝のように降る。(ゴーゴーと降り続く。) 	息苦しくなるような圧迫感があり、恐怖を感じる。
想定される被害	この程度の雨でも長く続く時は注意が必要。	側溝や下水道、小さな川があふれ、小規模ながけ崩れが起こりやすい。	山崩れ・がけ崩れが起きやすくなる。下水管から雨水があふれる。	マンホールから水が噴出する。土石流が起こりやすい。	大規模な災害が発生するおそれ強く、厳重な警戒が必要。



土石災害に備えましょう

大雨や台風、地震が起きたときには、地盤がゆるみ土石流やがけ崩れ、地すべりといった土石災害を引き起こす可能性があります。土石災害から身を守るためには、まず自分の家の周りに危険がないか確かめることが重要です。また、土石災害には前兆現象があります。前兆現象を感じたら速やかに避難するようにしましょう。

土石災害の種類と前兆現象

がけ崩れ

斜面の地表に近い部分が雨水の浸透や地震等でゆるみ、突然崩れ落ちる現象です。瞬時に崩れるため、逃げ遅れる人も多く、被害が大きくなります。

こんな前兆に注意して!

- がけから出る水が濁る。
- がけに亀裂が入る。
- 小石がパラパラ落ちてくる。
- がけから音がする。

地すべり

ゆるやかな斜面において、降雨の影響で地下水の水位が上昇することによって地面がゆっくりと下に動き出す現象です。範囲が広いため、甚大な被害が発生します。

こんな前兆に注意して!

- 地面にひび割れができる。
- 地面の一部が陥没したり、隆起したりする。
- 沢や井戸の水が濁る。
- 斜面から水がふきだす。

土石流

渓流にたまった土砂や石が大雨によって一気に下流に流される現象です。時速20~40Kmという速さで建物などを壊滅させてしまいます。

こんな前兆に注意して!

- 山鳴りがする。
- 川が濁ったり、流木が混じりはじめる。
- 雨が降り続けているのに、川の水位が下がる。

注意しよう! 土石災害警戒情報

大雨警報(土石災害)が発表されている状況で、土石災害発生の危険性が高まったときに、気象庁と熊本県が共同で発表する情報です。土石災害警戒情報が発表された時は「**いつ土石災害が起きてもおかしくない**」という非常に危険な状態です。情報は市町村単位で発表されるので、住民のみなさんの自主避難の判断に活用できます。



土石災害警戒情報が発表されたら

- マップの土石災害警戒区域等の区域外への自主避難を判断してください。
- 水俣市が発表する避難情報に注意しましょう。
- 周囲の様子をよく観察し、前兆現象を見逃さないようにしましょう。